『新ポケットモンスター(仮)』

　　　♯０２「タイトル未定」

　　　　　　　　　　　　2022/08/09　３稿

　　　　　　ストーリーライダーズ　佐藤大

リコ

◎ニャオハ

フリード

◎リザードン

◎ピカチュウ

ジョーイ

マードック

◎イワンコ

オリオ

つりびと老人

◎ホゲータ

◎クワッス

◎その他の船内ポケモンたち

ライバル

◎ヒノコ２Ｂ

◎アーマーガア

部下Ａ(女性)

◎ゴルダック

◎エアームド

部下Ｂ(男性)

◎サイドン

◎エアームド

ほか

　　　　　　（２０×４０行　計１９ページ）

〇アヴァン

(テレビでの初回１時間放送時はカット予

定でＡパートから)

* 前話まとめ
* 前話のまとめを冒険のはじまりって感

じで、その上、謎の輝きに包まれた。と

いう日記的なリコのモノローグで繋ぐ。

〇オープニング

〇Ａパート

* 学園・付近・上空

前話の続き。

夜空をおおうのは、美しく、そして、驚

くべき力によって発生した大きなバリア。

リコ「…なにが(おこったの)？！」

　　ニャオハも空中に浮いて驚きの顔。

ニャオハ「…にゃおお？！」

　リコ、ふっと胸元をみると輝くペンダン

トが、カメ姿になって胸元にしがみつい

ていた。

　その一瞬、カメと目が合うリコ。

リコ「ん！？」

　次の瞬間、カメがペンダントの中にひっ

こんできえる。同時に輝きも消失。

※コダイカメが目覚めたことで力が解放

されたが、リコと目が合って、思わず驚

いたと同時に顔をひっこめたらバリアも

消失した表現です。

リコ「は…なに」

ニャオハ「ふぎゃ」

リコ「待って、ま、あぁぁ」

と、落ちていくリコとニャオハだが…。

リコ「ああああぁぁ」

次の瞬間、大きな影がリコとニャオハを

を受け止めた。

リザードンにお姫様だっこをされたリコ。

リコ「わっ」

リコの胸に抱きしめられているニャオハ。

ニャオハ「ニャ」

みるとリザードンの顔。

リコ「リザードンっ？！」

そして、そのリザードンにまたがってい

るフリードが、リコたちをのぞき込む。

フリード「ふたりとも、無茶なことをするな」

とリコとニャオハを咎めるフリード。

ニャオハ「にゃ」

その言葉は、いつもニャオハにリコがいっ

ていたものと同じだった。

リコ「ふたりとも？！」

思わずリコとニャオハは顔を見合わせる。フリード「が、その度胸は気に入った」

と微笑むフリードと、眼下をみて。

ゴーグルをしたフリード。

フリード「(眼下のライバルに)悪いな。勝負

は次の機会だ。(リザードンに)リザードン！」

リザードン「(咆吼)」

急上昇するリザードン、リコとニャオハ

と共に、飛び去っていく。  
リコ「わああふ！」

フリード「しっかりつかまってろよ」

学校の屋上から、どこまでも続く夜空、

大きな満月の浮かぶ空へと高く舞い上が

る！

リコ「すごいよ！ニャオハ」

リコが、手を伸ばせば掴めそうな月。

ニャオハ「ニャオハ！」

学校と学寮が、段々と小さくなっていく。

　　　×　　　×　　　×

　　同・学校・屋上。

眼下では、見送ることしか出来なかった

ライバルと部下たち。

ライバル「よい腕だ…」

部下Ｂ「ヤツは、なにもので？」

ライバル「(首をふり)わかってるのは、任務

の邪魔ということだ」

さきほどのバリアをみて何かを考えてい

るライバル。

ライバル「あの…輝き。ペンダント。…一筋

縄ではいかないことだけは理解した」

部下Ａ「…ライバルさま。いかがします？」

部下たちにリコたちの追撃を指示する。

ライバル「追うぞ」

部下Ａ・Ｂ「はっ」

次の瞬間、３人とも早き替えで、エクス

プローラーズの服になるライバルたち。

部下Ａ「「エアームド」！」

部下Ｂ「「エアームド」！」

ライバル「「アーマーガア」！」

おのおのが、ひこうタイプのポケモンを

くりだすと同時に飛び乗る。

* 上空

時間経過。月夜を飛翔するフリードが操

るリザードン。リザードンにだっこされ

たリコとニャオハ。

リコ「…」

リコが、ふっとみるとペンダントの輝き

は、いつの間にかおさまっていた。

リコ「きっきのは…ポケモン？」

そこに現れたのは、迎えの飛行船。

リコ「飛行船？！」

フリード「ああ。オレたちの船×××(名)だ」

ニャオハ「ニャ〜」

フリード「(通信で)フリードだ。もどったぞ。

上部デッキ・オープンっ」

　　その上部、リザードンが接近すると、

開く様に展開されたバトルフィールドも

ある上部デッキ。

リコ「わあ！」

ニャオハ「ニャ！」

* 飛行船・上部デッキ

フリードが、リザードンでリコとニャオ

ハをつれて着地。

フリード「到着っ！」

ニャオハを抱えたリコを降ろしてくれる。

リコ「ありがとう。リザードン」

ニャオハ「ニャ」

　　リコが、リザードンを撫でる。

リザードン「(なく)」

　　デッキの先端に位置地する展望室から出

迎えるマードックとジョーイ。

ジョーイ「あなたが、リコね」

リコ「は、はい。でも、どうして、わたしの

こと…というか、あなたたちはいったい？」

ジョーイ「(気づく)まさか。(フリードに)あんた！このコたちに何も説明してないんじゃ？！」

フリード「あぁ？そうだったっけか」

リコ「(こくこくうなづく)」

マードック「おいおい。どうやってつれてきたんだ！」

　　２人にタジタジになるフリード。

フリード「あう。だから、いろいろ事情というか、ヒマがなかったんだって…」

ジョーイ「フリード！」

フリード「はいはい」

リコ「(独白気味で)フリードっていうんだ…」

ニャオハ「ニャ」

ホゲータ(OFF)「ホゲーッ」

　　次の瞬間、目に入るのは一緒に出迎える

ポケモン(「ホゲータ」「パモ」)たち。

リザードン「(なく)」

リザードンを出迎える様子である。

リコ「あ。「ホゲータ」…「パモ」まで、どう

してパルデアのコたちが、ここに？」

マードック「ああ。こいつらか？旅してる間

に住みついちまったんだ。パルデアのだけ

じゃないぞ。ほら」

　「マホイップ」や「ユキワラシ」が、「ヨ

ルノズク」も周囲を囲んでいる。

マードック「みんな帰りを心配していたんで

な。出迎えにきちまって」

　わちゃわちゃしているポケモンたちの姿

をみて、一気に心が安らぐリコ。

リコ「(独白気味で)みんなが？…ここって、

そういうとこなんだ。…すごいです」

ジョーイ「ここは、×××号。レジェンズの

飛行船だ。あらためて、私はジョーイだ」

マードック「おれはマードック」

　　傍らでイワンコがなく。

マードック「こいつは、相棒のイワンコだ」

イワンコ「ワン」

リコ「わたし…リコです。で、ニャオハ？…

もう仲よくなってる」

　　気がつくとニャオハとホゲータとイワン

コたちが、それぞれじゃれ合っている。

イワンコがニャオハの香りにクラクラ。

イワンコ「ワン！」

ニャオハ「ニャ〜」

ホゲータ「ホゲー」

　　リザードンに憧れて出迎えたホゲータと、

その様子を面白がってニャオハとイワン

コいう感じが背景で描かれる

リザードン「(なく)」

ホゲータ「ホ！」

　　ホゲータが、その声をきくと艦内へとむ

かう。リザードンについていく。と、展

望台の付近にある飛行船への出入口には、

「ヨルノズク」がいる。

フリード「操舵室にいく。ジョーイは、その

子たちを頼む。「ヨルノズク」、周囲の警戒

を頼む。ヤツらはまだあきらめちゃいない」

ヨルノズク「(なく)」

マードック「フリード。ヤツらってなんだ。

いったい学校で何があった？」

フリード「詳しい話はあとだ。マードックは、

ポケモンたちを安全な場所へ」

マードック「(ポケモンたちに)みんな、もど

るぞ。さあさあ」

　マードックが、「パモ」たちをうながすと、

出入口へ。

ジョーイ「嵐が発生してるって。オリオが、

テンパッてるけど」

フリード「進路を変える必要がある。いくぞ。

リザードン！」

フリードは「リザードン」と船内へ。

　　その後ろを遅れてホゲータが、いく。

* 同・船内

操舵室にむかっているフリード。艦内通

信をしつつ。

フリード「追っ手がくる。まくるぞ。オリオ」

　　　×　　　×　　　×

同・機関室。

エンジン部分、オリオと「マグマック」

と「トロッゴン」たちが、一緒に動かし

ている様子。

オリオ「なにいってんの。エンジンも休ませ

ないといけないのに！」

フリード(通信)「援軍をおくるっ」

　　　×　　　×　　　×

フリード「リザードン。機関室だ。頼むぞ」

リザードン「(鳴く)」

リザードン、フリードと別れて機関室へ。

背後でホゲータがチョロチョロしている。

ホゲータ「ホゲ」

次の瞬間、大きく揺れる船体。

フリード「くっ」

* 同・操舵室

背後から視点で、何者(ピカチュウ)かが、いる様子。何者かはわからない。

フリード(通信)「キャプテン！すぐいく」

* 付近・上空

「アーマーガア」「エアームド」にそれぞ

れ掴まり飛行するライバルと部下たち。

ライバル「いたぞ。「アーマーガア」！接近し

ろ」

アーマーガア「(なく)」

部下Ａ「前方、嵐が近づいています」

部下Ｂ「つっこむ気か？」

ライバル「かまわん、ここで追いつくぞ」

部下Ａ・Ｂ「はっ」

* 同・飛行船・バトルフィールド

巻き起こる突風で、ゆれる船。

ジョーイ「…残りは、展望室だ」

ジョーイが、残っていたポケモンたちを連れている。後ろでフラフラしているリコとニャオハ。

リコ「…わわ」

ニャオハ「ニャニャ〜」

ジョーイ「ふたりともこっちだ」

リコ「はい」

ニャオハ「ニャオっ」

リコが、背後に迫るライバルたちをみて。

リコ「あのひとたち、さっきの！？」

ジョーイ「あれが、フリードのいってた追っ

手ってこと」

リコ「はい。たぶん…」

ジョーイ「あいつら、…エクスプローラーズ

じゃん！」

　　※ジョーイは、ライバルたちがエクスプ

ローラーズの戦闘服に着替えてきたので、

彼らの存在を理解した。

　　　×　　　×　　　×

同・上空。

「アーマーガア」「エアームド」と共に接

近するライバルと部下ら。

部下Ａ「いました。飛行船の上」

部下Ｂ「飛行船の上にバトルフィールドだと」

ライバル「接近する！」

　　　×　　　×　　　×

同・バトルフィールド・展望室・付近。

ジョーイ「展望室へいく。とばされないで」

リコ「はい。いこ。ニャオハ」

ニャオハ「にゃ」

　　展望室へ、とはいるリコとニャオハ。

□　同・操舵室

　　飛び込んできたフリード。

フリード「またせたな。キャプテン。かわる」

　　キャプテン・シートがくるりと、振り向

くと、そこには腕組みをして、堂々と留

守を守っていた影が、応える。

ピカチュウ「ピカ！」

　　そこにいたのは、キャプテン(船長)姿の

ピカチュウ。

ピカチュウ「ピカピカッ？」

シートに座り、舵をにぎるフリード。

　　傍らに鎮座している「ノズパス」をみて。

フリード「ああ。しつこいヤツらだ…「ノズ

パス」が、あっちをみてるなら…こっちが

東南だな」

□　同・展望室。

ジョーイと数匹のポケモン(「パモ」「ユ

キワラシ」「マホイップ」)。そして、リ

コとニャオハも隠れている。彼らを「ヨ

ルノズク」が見守っている。

展望室の窓の外、その上空には、背後か

ら迫るエクスプローラーズ。

ジョーイ「追っ手って、エクスプローラーズ

じゃないか。なにやってんだ。フリード！」

　　　×　　　×　　　×

同・船内。マードックが、船内で右往左

往している「パモ」や「ユキワラシ」た

ちなどポケモンらを避難させている。

マードック「まて。エクスプローラーズだと」

　　　×　　　×　　　×

同・展望室。リコとニャオハを安心させ

ているジョーイが通信中。

ジョーイ「このままじゃ追いつかれるぞ。と

ばせ。オリオッ」

　　　×　　　×　　　×

同・機関室。

最大戦速で前進させるオレオだったが、

運が悪いことにエンジンの調子がわるい。

オリオ「むちゃいいなさんな」

　　と、リザードンがやってきてなく。

オリオ「たすかる！やっちやって」

　　リザードンが、火をはなつ。

オリオ「フルパワー！」

背後にチョロチョロしてるホゲータ。

リザードンの勇姿をみて、興奮。

　　　×　　　×　　　×

　　同・操舵室。

フリード「よし。嵐にむかって進路をとるぞ」

ピカチュウ「ピッカ」

　　　×　　　×　　　×

同・船室。

マードックとポケモンたち。

マードック「は？なにいってんだ！」

　　と、マードックが、偶然のようにフラリ

とあらわれたつりびと老人に声をかける。

マードック「じっちゃん。こいつら頼む」

　　つりびと老人が、ポケモンたちを従えて

うなづく。

つりびと老人「うむ。造作もない」

　　　×　　　×　　　×

　　同・船室・廊下。みんなとはぐれた「ク

ワッス」がバタバタとあわてて。

クワッス「クワッ」

船室の中にある「開かずの間」にぶつか

るが下の隙間から部屋の中へとにげこむ。

クワッス「クワッ〜ス！」

　　　×　　　×　　　×

　　同・機関室。

ホゲータが、リザードンの姿をみて。

　　リザードンに憧れているホゲータ。

　　自分も小さく火をだすが、消える。

ホゲータ「ホげッ…(むせる)げほげほっ」

　　そんなホゲータを持ってどけるオリオ。

オリオ「ごめん…ちょ。ホゲータ。忙しいの」

　　と、邪魔扱いされたホゲータ。

ホゲータ「ほ…」

　　すると、リザードンがホゲータに目線。

リザードン「…」

ホゲータ「…」

　　※リザードンは、ホゲータを励ます。そ

して出来ることを探せの意志でうなずく。

　　　×　　　×　　　×

　　同・操舵室。

フリード「あえて嵐に突っ込んで、ひこうタ

イプのポケモンたちをひきはなすぞ！この

天候じゃヤツらもついてこられないだろう」

　　　×　　　×　　　×

　　同・展望室。

ジョーイ「またムチャを…。ま、それしかな

いか。で、オリオ。あんた次第だな」

　　　×　　　×　　　×

同・機関室。

するとオリオとリザードン。

顔を見合わせて。

オリオ「りょ〜かい！やったろうじゃん。リ

ザードンっ」

リザードン「咆吼」

　　と、邪魔扱いされてホゲータが、リザー

ドンの勇姿をみつつ、出ていく。

ホゲータ「…ほ」

　　※ここで役に立たなかったが、別の場所

でリザードンのように役に立ちたいと考

えて移動をはじめる。

□同・飛行船・外観

と、スピードをあげて、

嵐へと飛び込む飛行船。

□同・付近・背後

飛行船に進路に驚くライバルたち。

部下Ａ「あいつら、嵐に飛び込む気か」

部下Ｂ「そんなムチャクチャだ。ライバル様」

ライバル「このまま飛行船を見失うワケには

いかない」

危険を承知で追撃するライバル…。

ライバル「飛行船をたてにして嵐をかわして、

接近する。つづけ」

　と、ライバルたちが、嵐の中へとむかう。

* 同・嵐の中

レジェンズの飛行船。

エクスプローラーズが追撃。

ライバル「…にがすか」

　　　×　　　×　　　×

同・展望室。

リコが、ペンダントを握る。

リコ「…きます」

　　ジョーイが、展望室内の装置を操作する。

ジョーイ「デッキをたたんでしまえば…」

　　　×　　　×　　　×

しかし、次の瞬間、ライバルが、飛行船

のバトルフィールドへと接近。

ライバル「ヤツらを探せっ！」

　　　×　　　×　　　×

同・展望室。その姿をみて、ジョーイ。

ジョーイ「フリード！エクスプローラーズが、

上部デッキに…とりつかれるぞ」

　　　×　　　×　　　×

　　同・操舵室。フリードとピカチュウ。

フリード「なんだと！」

ピカチュウ「ピカッ」

フリード「上部デッキをたため」

ジョーイ(通信)「やってる。…けど、風がつ

よくて、パワーがたりない」

　　　×　　　×　　　×

　　次の瞬間、雷。展望室付近で雷が直撃。

壊れる電源ブレーカーの装置。

　　　×　　　×　　　×

同・展望室。室内の電気がきれて、非常

灯だけになる。

ジョーイ「電源が落ちたか。しかたない…あ

なたたちは、ここにいて」

リコ「どこへ」

ジョーイ「手動でたたむ」

　　と、展望室を出ていくジョーイ。

　　　×　　　×　　　×

　　同・操舵室。と、そこにマードック。

マードック「避難完了したぞ」

フリード「マードック！舵をたのむ！」

ピカチュウ「ピカ」

　　次の瞬間、フリードが、ピカチュウをの

せ操舵室から飛び出していく。

マードック「おい。ムチャすんな。子供たち

がいるんだぞっ」

　　　×　　　×　　　×

　　同・船内。上部へ繫がる船内階段を展望

室へと向かっているホゲータ。

ホゲータ「…ほ、ほ」

※自分も役に立ちたい。

　　　×　　　×　　　×

　　同・上部デッキ・付近。

　　ジョーイが、船体のサイドにある電源ブ

レーカーが、壊れて火花が散っているの

を発見する。と、向かうジョーイ。

ジョーイ「…(あそこか)風が」

　　　×　　　×　　　×

同・機関室。

リザードンが、炎をつかって、エンジン

を加速させる。

リザードン「(咆吼)」

　　　×　　　×　　　×

　　同・展望室。あらわれたライバル。

ライバル「さぁ。こちらへ」

　　怯えているポケモン(「パモ」「マホイッ

プ」「ユキワラシ」)たちが「ヨルノズク」

の背後に隠れる。緊張の面持ちで、対峙

するリコ、ニャオハ。

リコ「！」

　　　×　　　×　　　×

次の瞬間、再び落雷。

レジェンズの旗に墜ちる。

と、壊れる旗が、嵐の中に消える。

〇Ｂパート

* 同・飛行船・展望室

ライバルとリコ、ニャオハが、対峙。

ニャオハ「フゥゥゥ！」

その後ろに「ヨルノズク」。その背後で「パ

モ」「マホイップ」「ユキワラシ」たちが

怯えている。

ライバル「…なぜ、にげる？」

リコ「わからないです」

ライバル「では、彼らのことが信用できると？」

リコ「わからないです」

ニャオハ「ニャオ」

と、ライバルを睨むニャオハとリコ。

ライバル「そのペンダントの謎…」

ライバルは輝くペンダントをみて、

ライバル「あの輝きの秘密を知っているのか」

リコ「わからないです」

ライバル「…わからないことだらけだな」

リコ「でも、ひとつだけわかります！」

ライバル「…ほう？」

リコ「あなたたちのことは、信用できません」

ニャオハ「ニャ！」

そんな頑固なリコとニャオハの態度をみ

て、見直した様子のライバル。

ライバル「素敵な覚悟だ。でも、無駄だ」

ニャオハ「ニャオハっ！」

しかし、次の瞬間、ニャオハが、「ひっか

く」攻撃を傍らの部下Ａにしかける。が、

部下Ａ「なっ！」

逆に部下Ａが抱きしめて、つかまえる。

ニャオハ「ニャ」

部下Ａ「もういけないコね。つかまえた」

リコ「ニャオハ！」

リコが、ペンダントをにぎりしめて。

リコ「やめて、そんなにペンダントがほしい

なら渡します。…ニャオハをはなしてっ」

　その態度にライバルが、感心。

ライバル「…確かに…最初はペンダントだけ

が目的だったが、どうやら、そのペンダン

トには、秘密がある…」

リコ「…」

ライバル「しかも、その秘密はキミと関係が

あるようだ。そこでキミたちにきてもらう」

リコが、「ヨルノズク」の背後で、怯え

ている「パモ」「ユキワラシ」「マホイッ

プ」たちをみて。

ライバル「どうする？」

リコ「…わかりました」

このままライバルといくしかない。

展望室をでるライバルとリコ。

怯えているポケモンたちに微笑むリコ。

リコ「(ポケモンたちに)みんなは、…もう大

丈夫だよ…」

そして、ニャオハと部下Ａ。とＢ。

　　　×　　　×　　　×

同・船体の横腹。梯子をおりて、ジョー

イが電源ブレーカー装置のところにいた。

ふっと上部デッキ付近をみると展望室か

ら出てきたリコたちの姿をみて。

ジョーイ「くっ！…しまった」

　　　×　　　×　　　×

同・上部デッキ・出入口。

…そんな様子をみていたのは、いつの間

にか、隠れていたホゲータ。

* 同・上部デッキ

リコとライバル。ニャオハと部下Ａ。

フリード(OFF)「まて」

　　次の瞬間、現れたのはフリード。

　　と、部下Ａが「サイドン」。部下Ｂが、

　　「ゴルダック」を取り出す。

　　その姿をみた開閉装置付近のジョーイ。

ジョーイ「フリード！」

　　格好良くフリード。リコたちをみて。

フリード「安心しろ。おまえもそいつ(ニャオ

ハ)も、必ず守ってやる」

※フリードにとって大切なのは、ペンダ

ントではない。

飛行船が、落雷でゆれる。

対峙するライバルとフリード。

フリード「お前らが、悪名高きエクスプロー

ラーズか」

ライバル「エクスプローラーズのライバルだ」

フリード「噂どおりの強引な連中だな」

ライバル「ふ。嵐に飛び込むお前らがいうか。

こいつがレジェンズの×××号か。お前は？」

フリード「レジェンズのフリードだ！ったく、

無許可で乗船とは、いい度胸だぜ」

ライバル「(リコとニャオハをみて)目的が終

わればすぐに出ていく」

フリード「(ずいと間にはいり)そいつはムリ

な相談だ」

ライバル「では…さきほどの続きをやるか」

フリード「のぞむところだっ…キャプテン」

　　フリードの傍らから飛び出すピカチュウ。

ピカチュウ「ピカチュウ！」

ライバル「ピカチュウ…？どういうつもりだ」

フリード「うちのキャップをなめてもらっちゃ、

こまるぜ」

ピカチュウ「ビカピカ」

ライバルが、再びヒノコ２Ｂをくりだす。

ライバル「では、手加減なしだ。ヒノコ２Ｂ」

ヒノコ２Ｂ「！」

フリード「みせてやろうぜ」

ピカチュウ「ピカッ」

　　電気をまとい。ライバルのポケモンへ。

フリード「ピカチュウ！「かみなりパンチ」！」

ピカチュウ「ピカチュウ！」

しかし、ヒノコ２Ｂが両手の剣で弾く。

ヒノコ２Ｂ「(なく)」

ライバル「ふん。ヒノコ２Ｂにはきかん」

　　すかさずフリードが、連続に指示。

フリード「次だ。「かげぶんしん」！」

ピカチュウが「かげぶんしん」で相手を

囲む。

ピカチュウ「ピカピカッ」

ライバル「なに。ヒノコ２Ｂ。「ねっぷう」だ」

ピカチュウの分身たちを「ねっぷう」で

一掃するヒノコ２Ｂ。

ピカチュウ「ピカ」

その攻撃の隙をついて、ヒノコ２Ｂの背

後を取るピカチュウ。

フリード「ピカチュウ、「じゃれつく」だ」

急接近で「じゃれつく」を仕掛けるも。

ライバル「いまだ。「むねんのつるぎ」！」

ヒノコ２Ｂが「むねんのつるぎ」でピカ

チュウを切りつける…。

フリード「…(ニヤリと)」

が、そのピカチュウも分身のひとつ。

ピカチュウ「ピカ、ピカチュウ！」

と、そこに落雷。

ライバル「なにっ」

フリード「いいぞ。ピカチュウ」

ピカチュウ「ピカピカッ」

落雷した場所にはピカチュウ（＝特性「ひ

らいしん」の効果で雷を吸収）。

フリード「充電完了！「ボルテッカーッ」！」

充電した電気エネルギーを身にまとって、

ヒノコ２Ｂに「ボルテッカー」を決める。

ヒノコ２Ｂ「…(なく)」

ライバル「ヒノコ２Ｂ！」

ヒノコ２Ｂは体勢を立て直しつつ。

ライバル「…まだだ。「ねっぷう」！」

「ねっぷう」を放つも。

攻撃は逸れ、展望室へ。

　　　　　×　　　×　　　×

同・展望室。

ヒノコ２Ｂの「ねっぷう」攻撃が展望室

に直撃。

中に残ったポケモンたちが、危ない。

　　　×　　　×　　　×

上部デッキまでもどってきたジョーイだ

が、あぶなく落ちそうになる。

ジョーイ「！」

　　　×　　　×　　　×

そんな闘いの被害の様子をみて、リコ。

リコ「やめて！やめてください！」

　　　×　　　×　　　×

その声にライバルとフリードのバトルが、

中断される。

　　　×　　　×　　　×

その周囲には、部下Ａ・Ｂたち。

リコ「わかりました…。いきます」

※リコは、フリードたちにこれ以上は迷

惑をかけたくないと考えての行動。

リコ「これ以上、みなさんに迷惑をかけたく

ない、です」

しかし、フリードもピカチュウも怒髪。

フリード「迷惑？バカ言ってんじゃねぇ！」

ピカチュウ「ピカッ」

リコ「これ以上、みんなが、傷ついてほしく

ないです」

そういうリコを守ることが出来ない自分

の不甲斐なさをせめる。

フリード「くっ…」

　　　×　　　×　　　×

…と、その時、ライバルと部下たちの背

後から襲い掛かる黒い影。

ホゲータ「ホゲータッ！」

それは、ホゲータだった。

ホゲータ「ホゲッ」

驚く部下Ａ。部下Ａを守るゴルダック。

部下Ａ「なに！」

思わずみず技で、攻撃するゴルダック。

ゴルダック「(なく)」

と、ホゲータに直撃してしまう…。

ホゲータ「ゲッ」

傷つくホゲータ。

リコ「ホゲータ？！」

　　　×　　　×　　　×

その姿をみたリコとニャオハの驚愕…。

リコ「いやっ」

次の瞬間、ホゲータの傍らへといこうと

リコとニャオハ。

リコ「どうして…こんなこと…」

とめようと部下たち。だが…

リコ「はなしてッ！」

と拒絶すると、はしりだす。

リコ「ニャオハ！」

ニャオハ「ニャ」

ニャオハとリコのコンビが技をくりだす。

リコ「このはぁぁぁぁぁっ！」

* ここで出た特別な技は、リコとニャオ

ハがはじめて心から誰か(この場合はホ

ゲータ)の為に闘いたいと思った気持ち

によって発生した。

* リコとニャオハの覚醒技「このは」。

放たれた技は「このは」とは思えない

ほどの威力。火事場の馬鹿力が出た。

ものすごい「このは」が炸裂する。

* 同・バトルフィールド

その技が、ひろがると周囲を破壊。

ライバル「…！」

リコとニャオハ、技が出来たという感激。

リコ「ニャオハ」

ニャオハ「ニャ」

驚くフリードとピカチュウ。

フリード「！」

ピカチュウ「ピカ」

　　　×　　　×　　　×

次の瞬間、大きな落雷。

ゆれる船。

ジョーイが船体にしがみつく。

ジョーイ「！」

　　　×　　　×　　　×

その衝撃で、吹き飛ばされるリコ。

リコ「(悲鳴)」

　　次の瞬間、飛ばされたニャオハ。

ニャオハ「にゃあああああああああッッ」

偶然、ライバルに捕まる。

ニャオハ「ふぎゃ！」

ライバルが、思わずつかまえる。

ライバル「…！」

ニャオハ「ニャ…」

　　飛ばされた衝撃で気を失ったニャオハを

抱きしめたライバル。

ライバル「…」

「アーマーガア」「エアームド」たちに

捕まるライバルと部下たち。

嵐が強くなり、雷が連続する。

部下Ｂ「ライバルさま！」

ライバル、ニャオハをつれたままで飛翔。

ライバル「なんだ、あの技は…」

部下Ａ「このままでは(嵐に)飲み込まれます」

ライバル「だが、今は…(部下たちに)ああ。

いったん撤退する！」

　　　×　　　×　　　×

　　リコは、なんとか捕まえるフリード。

リコ「ニャオハぁぁぁ」

ショックのリコ。

リコ「…」

フリード「…」

リコを支えるフリード。

嵐の中で…。

〇エンディング

つづく